

平成 29 年漁期のハタハタ漁獲対象資源量の予測結果（第 1 報）

本年春季に試験船青鵬丸で行った調査結果をもとに、本県のハタハタ漁獲対象資源量の予測を行いましたのでお知らせします。なお、10 月～11 月に試験船青鵬丸が実施する漁期前分布調査と、秋田県の情報をもとに、11 月末に第 2 報として再度お知らせいたします。

1. 予測方法

青森県沿岸で漁獲されたハタハタ漁獲物を調べ、雌雄別、年齢別の漁獲尾数を推定し、VPA(virtual population analysis)を行い、前進法により青森県における雌雄別、年齢別の漁獲対象資源量を推定しました。

毎年 4 月～7 月に試験船青鵬丸が行う、本県沖合におけるオッタートロール調査から求めた雌雄込みのハタハタ 1 歳魚分布密度と、VPA で求めた雌雄別 1 歳魚資源量とが、それぞれ有意に回帰します($p < 0.05$) (図 1)。この回帰式に平成 29 年春の 1 歳魚分布密度 8.1 個体/1,000 m²をあてはめ、平成 29 年漁期（平成 29 年 9 月～平成 30 年 8 月）に漁獲加入する雌雄別 1 歳魚の資源量を求め、前進法で推定した 2 歳魚、3 歳魚以上の結果と合わせて、平成 29 年漁期の本県における 1 歳魚～3 歳魚以上の漁獲対象資源量を推定しました。

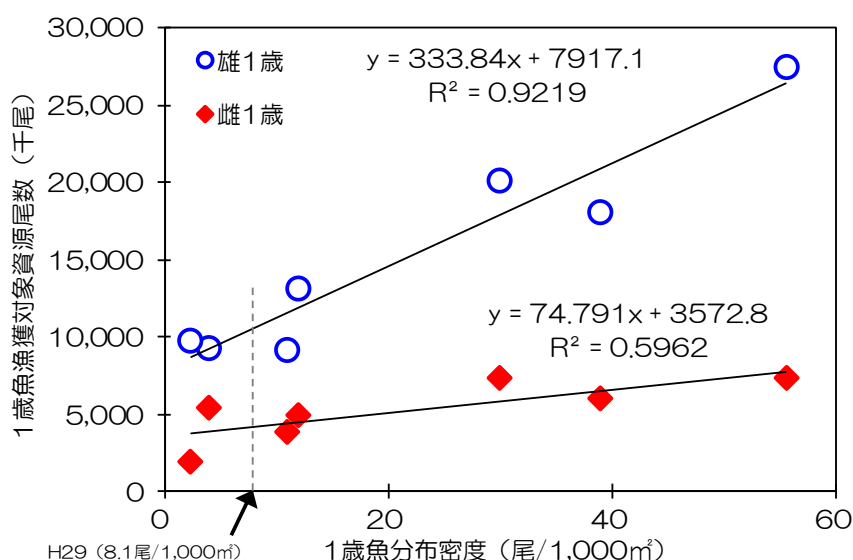


図 1 H22～H28 年の雌雄込み 1 歳魚分布密度(青鵬丸調査)と雌雄別 1 歳魚資源尾数の関係
※1 歳魚雌の中で成熟しないものは接岸しないため、雌の資源尾数が少なく算出されます

2. 結果 —平成 29 年漁期のハタハタ漁獲対象資源—

漁獲対象資源量は前年をやや下回り、主体は 1、2 歳魚。

平成 29 年漁期に本県で漁獲対象となるハタハタ資源量は前年比 76%の 1,173 トンと推定され、前年をやや下回る水準であると考えられます（図 2）。年齢別に見ると、1 歳魚が 561 トンと最も多く、次いで 2 歳魚が 438 トンで、両者を合わせると資源全体の 85%を占めます（図 3）。

今期の漁獲対象資源は、1 歳魚の雌の中で成熟せず接岸しないものを除いた 1、2 歳魚が主体になると考えられます。

※対前年比±20%未満：並み、21%以上 40%未満：やや、40%以上 60%未満：かなり、60%以上：はなはだ

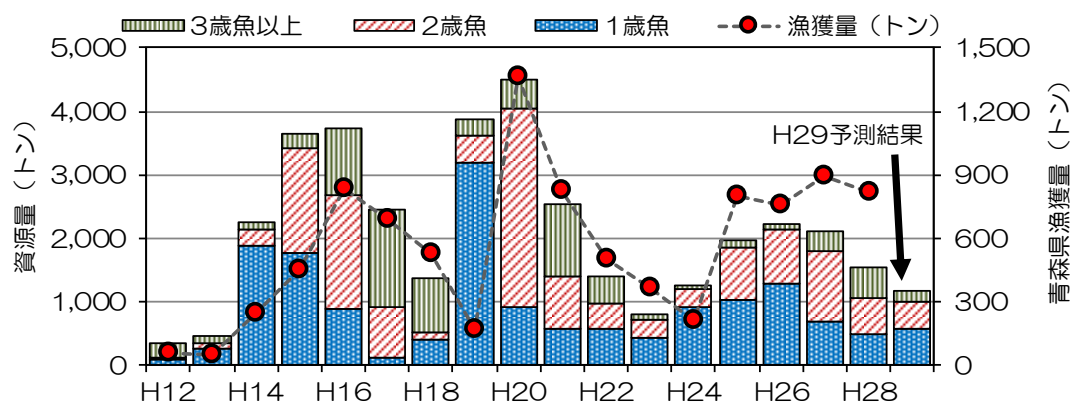


図 2 青森県のハタハタ漁獲対象資源量（棒グラフ）と漁獲量（折線）の動向

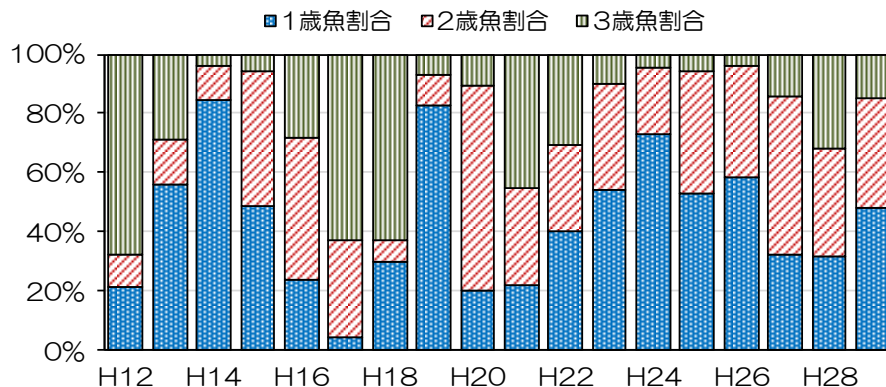


図 3 青森県のハタハタ漁獲対象資源量に占める年齢別割合
※H29 年は予測結果

※※用語説明：漁獲対象資源量と漁獲量の違い※※

漁獲対象資源量とは、『漁獲しうる資源全体の量』を指し、これから寿命を迎える、捕食される（自然死亡）、漁獲されずに親魚として繁殖に参加し、子孫を残す分等が含まれます。

一方で漁獲量は、漁獲対象資源量の中から、実際に漁獲した量のことを指します。

一見すると、漁獲対象資源量が多ければ漁獲量も増えるように感じられますが、漁獲量の増減には、漁獲対象資源量以外に、出漁日数、年齢の影響、消費需要に合わせた漁獲調整、など様々な要因が複雑に関係しており、両者の動向は必ずしも一致しません。